



日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告 (2007年4月～6月)

JSPS Strasbourg Office Quarterly / 2007-No.1

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センターは、フランスのストラスブールにある日仏学会館内に事務所を置き、フランス語圏にある大学及び研究機関と日本の学術交流を推進するために活動しています。センター長(中谷陽一)、副センター長(白石賢一)のスタッフに加えて、2007年4月より、東京大学職員の井上美里さんが国際協力員として着任いたしました。職員数3名の小さなセンターながら、日仏の学術交流に少しでも役立てるよう活動していく所存です。



学術セミナー及びルイ・パスツール大学(ULP)とのJoint Seminarの開催

2003年より、日仏学会館との共催で、日仏の研究者を招待して、様々なテーマで学術セミナーを開催しています。また、フランスの大学を訪れる日本人研究者を支援する一環として、ルイ・パスツール大学との合同セミナーも開催しています。4月～6月は合計7回のセミナーを開催しました。

- 4/11 第54回学術セミナー 山崎亮博士(島根大学教育学部教授)
「日本における脳死・臓器移植」
- 5/21 第55回学術セミナー Dr. Claude SITTLER(CNRS 名誉主任研究員)
「アルザス地方のブドウ畑の土壌：そこから産出されるアルザスワインへの地質の影響」
- 6/5 第14回 ULP-JSPS 合同セミナー 長嶋雲兵博士(産業技術総合研究所主幹研究員)
「フラグメント MO を用いた DNA とエストロゲンレセプターの相互作用解析」
- 6/8 第15回 ULP-JSPS 合同セミナー 石田康博博士(東京大学大学院工学系研究科講師)
「カルボン酸・アミン塩よりなる二成分液晶を用いたホスト・ゲスト化学」
- 6/11 第16回 ULP-JSPS 合同セミナー 小嶋聡一博士(理化学研究所分子細胞病態学研究ユニットリーダー)
「レチノイドをバイオプローブとして用いた TGF- β の活性化と関連反応の解析」
- 6/21 第17回 ULP-JSPS 合同セミナー 岡田尚武博士(北海道大学 理事・研究担当副学長)
「統合深海掘削計画(IODP)における石灰質ナノプランクトンの地球年代学のおよび古海洋学的な応用」
- 6/23 第18回 ULP-JSPS 合同セミナー 安本正人博士(産業技術総合研究所主任研究員)
「産総研における X 線イメージング研究」



第54回 学術セミナー
日本における脳死・臓器移植の問題について講演した山崎亮博士(中央) Prof. Daniele ALEXANDRE(日仏学会館館長：中央左)、Dr. Sandra SCHAAL(Marc Bloch 大学、講演通訳者：中央右)、Prof. M. Sakae GIROUX(Marc Bloch 大学教授：右から4人目)、Prof. Guy SANDNER(Louis Pasteur 大学教授・JSPSOB：左から4人目)、上園英樹氏(在ストラスブール日本総領事館領事：左から3人目)、上村昌子氏(在ストラスブール日本総領事館領事：右から3人目)



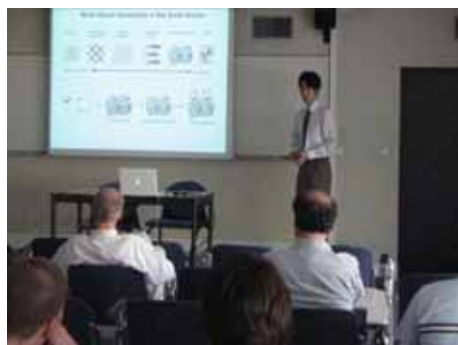
第55回 学術セミナー
講演者 Dr. Claude SITTLER
アルザス地方の種々の土壌とブドウの品種との関係、そしてその生産物であるワインへの影響について語る



第55回 学術セミナー
Dr. Claude SITTLER の講演に聴き入る庄司隆一氏(在ストラスブール日本総領事館総領事：前列右から2人目)、Prof. Daniele ALEXANDRE(日仏学会館館長：前列右端)ほか多くの参加者。立ち見も出る盛況



第 14 回 ULP-JSPS 合同セミナー
 講演者 長嶋雲兵博士
 新しい計算法を用いての DNA とレセプターの複合体形成の解析について講演



第 15 回 ULP-JSPS 合同セミナー
 講演者 石田康博博士
 カルボン酸とアミノアルコールとの塩がゲル状液晶相を発現することを発表



第 16 回 ULP-JSPS 合同セミナー
 レチノイドが有用なバイオプローブであることを説明する講演者の小嶋聡一博士



第 17 回 ULP-JSPS 合同セミナー
 講演者 岡田尚武博士（北海道大学理事・研究担当副学長）
 国際的な海洋科学プロジェクト“統合深海掘削計画(IODP)”についての講演



第 17 回 ULP-JSPS 合同セミナー
 岡田尚武博士の講演を聴く Prof. Michel CARA(EOST 研究所長：前列右端)ほか参加者



第 18 回 ULP-JSPS 合同セミナー
 講演者 安本正人博士
 産業技術総合研究所の X 線イメージング等の先端技術の説明

フランスにおける対応機関等との協力、国際会議等への参加

日本学術振興会はフランスの CNRS、INSERM、INRA 等代表的な研究機関と共同セミナー・研究者交流等を支援する二国間学術交流を行っていますが、6 月 13 日には INRA（国立農業研究所）国際部に招かれ、JSPS と INRA のより一層の学術交流について意見交換を行いました。



INRA にてプレゼンを行う中谷センター長（右から 2 人目）
 着席者右より、Bernard Charpentier INRA 国際関係部長、Yve Griveau INRA 国際部アジア・オセアニア地区担当、Maryline Laplace アグロパリティック国際課長、Catherine Mariojouis アグロパリティック教授（JSPS フランス同窓会幹部）

INRA と日本の教育・研究機関との協力については、1999 年に JSPS と共同研究の二国間協定を結んだほか、2006 年には NIAS（農業生物資源研究所）と“Cereal Genome”について、2007 年に筑波大学と“Plant Genomics”についての共同研究を始めています。また、INRA は 2005 年の数値で 1,600 名ものブレノポスドクを受け入れ、65 パーセントが外国人ポスドクです。しかし、これらブレノポスドクレベルでの日本との交流はそれほど活発でなく、2006 年の数値で日本 INRA のポスドクが 9 名、ブレドクが 4 名という結果に留まっています。INRA としては、日仏間の若手レベルでの交流を更に活発化させたいとの希望です。

また、今回の INRA との会談に同席したアグロパリティック（Agroparistech）は、農水省管轄の農業系グラン・ゼコール 3 校によって 2007 年 1 月に設立された教育・研究機関であり、構成体の 1 つである Institute National Agronomique Paris-Grignon（INA P-G）は、フランスを代表する農業系グラン・ゼコールで、日本とは従来より東京大学と国際会議共催、研究者交流、学生交換等の交流がされています。アグロパリティックは、3 校の統合により魅力的なカリキュラムと、多分野にわたる研究スタッフを備えた教育・研究機関として、日本との活発な交流を望んでおり、特に同校のカリキュラム上必要である学外研修の期間を、日本との交流形式で行いたい等の積極的な発言がありました。

フランスは農業大国であり、農業（生物）分野での日本の基礎・応用研究との益々の学術交流発展が今後も期待されます。

また、当センターでは CNRS (国立科学研究センター) と協力して本会事業である外国人特別研究員 (欧米短期) の選考を実施しています。年 2 回 CNRS との合同選考会を行い、採用候補者を東京に推薦しています。6 月 14 日にパリ・CNRS 本部において、平成 19 年度募集分の第 2 回目の CNRS との合同選考会議を開催しました。



合同選考会議の様子

左より、Dr. Minh-Hà PHAM-DELEGUE (CNRS アジア太平洋課長)、Mme Monique BENOIT (CNRS 日本韓国担当官)、中谷センター長、白石副センター長

当センターと CNRS の合同選考により推薦された、年間 10 名程度の若手研究者が外国人特別研究員 (欧米短期) として日本に渡航します。より優秀な候補者を集めるため、CNRS と協力し、プログラムの一層の広報努力を行っていききたいと思います。

当センターは、在ストラスブール日仏学会館が主催するシンポジウム・講演会等にも積極的に参加・協力をしています。6 月 25 日～6 月 28 日にかけて、日仏共同博士課程で日本に派遣予定のフランス人大学院生が日仏学会館にてオリエンテーションを受講しましたが、中谷センター長による講義 (題目:「日本における研究」) が行われました。

また、ストラスブールには在ストラスブール日本総領事館を始めとして、HFSP (国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム機構)、ESF (欧州科学財団) 等の重要な日本政府機関・国際機関が設置され、当センターの重要なパートナーとなっています。ESF が NSF (米国科学財団) との共催で 6 月 5 日～6 月 7 日にかけて開催した International Workshop on Accountability Challenges には、白石副センター長が参加し、欧米のファンディング・エージェンシーの研究費不正使用対策等についての情報収集を行いました。



在ストラスブール日本総領事館にて

庄司隆一氏 (在ストラスブール日本総領事館総領事: 右から 2 人目)、上園英樹氏 (在ストラスブール日本総領事館領事: 右端)、中谷センター長 (左から 2 人目)、井上国際協力員 (左端)

4 月 16 日に在ストラスブール日本総領事館を訪問し、当地で開催する JSPS 関連フォーラムへの協力要請を行いました。在ストラスブール日本総領事館は、24 名のスタッフを擁し、当地にある欧州評議会 (日本は米国等とともにオブザーバー国) への常駐代表部的な役割も果たしています。



フランスの大学、グランゼコール、研究機関への訪問: JSPS 事業説明会・JSPS 同窓会支部会の実施

当センターは、フランス各地の大学を訪問し、直接に研究者と対話を行い、また、その機会に各地の JSPS 同窓会との交流を深めています。

5 月 14 日 Institut de Biologie Physico-Chimique (生物物理化学研究所)

パリ市内にある生物物理化学研究所を訪問し、Dr. Francis-André WOLLMAN (研究所長)、Dr. Jean-Luc POPOT (CNRS ユニット長) らと国際交流についての意見交換、同研究所の見学を行い、また JSPS 事業説明会を開催しました。

生物物理化学研究所は、1930 年に物理学者の Jean PERRIN (1926 年ノーベル物理学賞) のアイデアと、Edmond de ROTHSCHILD 男爵による財政的なバックアップにより設立されました。物理・化学・生物の各分野の研究者が、大学等の公的な研究機関でなく私立財団の援助により 1 つの建物の中で研究を行うという、ユニークな学際研究のパイオニアと

して、1930年代には多くの重要な研究が為されました。第2次世界大戦後、同研究所は CNRS、INSERM および INRA との共同研究ユニットから構成されていましたが、1997年から、CNRS の Institut Fédératif de Recherche (IFR：連合研究機構)として、5つの研究ユニット・約150名の研究者から構成される研究所となりました。研究ユニットは CNRS の研究員のみで構成される Unités Propres de Recherche(UPR)の3ユニットと、大学との連盟研究室となる Unité Mixte de Recherche (UMR)の2ユニットがあり、UMRでは、パリ第6大学とパリ第7大学との連盟研究室となっており、大学院生の教育等も研究と並行して行われています。



Dr. Francis-André WOLLMAN(生物物理化学研究所長：後列中央)、
Dr. Jean-Luc POPOT(CNRS ユニット長：後列右)

白石副センター長による
JSPS 事業説明会の様子



5月14日 Institut Curie (キュリー研究所)

キュリー研究所は、有名なキュリー夫妻の物理化学の実験室が母体となって設立された癌の研究でフランスを代表する研究所です。現在は年間1億6千7百万ユーロの年間予算を受けて、2,000名の研究者が、放射線医学を中心とした研究に励んでいます。また、2007年10月には Nikon Imaging Center が研究所内に設置される予定です。

キュリー研究所では、JSPS 事業のOBでもある Prof. Pierre-Gilles de GENNES (ノーベル物理学賞受賞者)を表敬訪問したほか、Prof. Daniel LOUVARD 研究部門長と意見交換、研究所訪問を行いました。訪問と併せて JSPS 事業説明会を開催しましたが、LOUVARD 研究部門長をはじめとしたフランス人研究者の方だけでなく、日本からポスドク等で同研究所に来ている若手研究者も参加し、日仏交流のより一層の可能性について活発な質疑応答がなされました。事業説明会終了後も、キュリー研究所による日仏学術交流の懇親会が開催され、そこではフランクな意見交換が行われました。特に日本の若手研究者は大変優秀であり、もっとポスドクレベルでの(フランスの研究機関への)受入を望む声が多く聞かれました。



研究所内を案内される
Prof. Pierre-Gilles de GENNES



JSPS 事業説明会の様子



Prof. Daniel LOUVARD (研究部門長、フランス科学アカデミー会員)

お悔やみ：Prof. Pierre-Gilles de GENNES(1991年ノーベル物理学賞)は2007年5月18日に逝去されました。故人は JSPS フランス同窓会会員であり、2005年12月に当センターが CNRS と “Workshop on Japanese-French Research Cooperation” を開催した際は、“The hard life of inventors” と題する講演を行っていただき、多くの聴衆を魅了しました。今回5月14日に訪問した際には、ご自身の研究室で朗らかに私どもを迎え、気さくにキュリー研究所をご案内くださり、また JSPS による日仏学術交流への支援に対する感謝の言葉を頂いていたおりの突然の訃報であり、センター長以下当センターのスタッフも驚きを禁じえません。故人のご冥福と、偉大な科学者の逝去を悼み、ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

5月15日 Université Paris-Sud 11 (パリ第11大学)

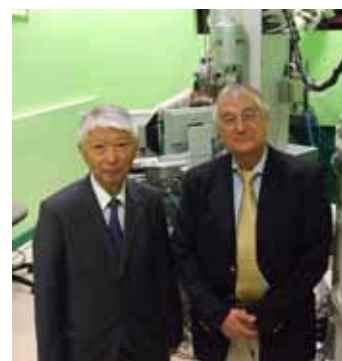
パリ南大学(第11大学)は、パリの郊外オルセー地区など5つの地区にキャンパスを持ち、総面積270ヘクタールというフランスの大学の中では最大のキャンパス面積を誇ります。この広大な敷地に、5つのUnités de Formation et de Recherche (UFR:教育研究単位 日本の学部・大学院研究科に相当) 3つのInstituts Universitaires de Technologie (IUT:技術短期大学部 課程2年の職業教育を行う) 1つのEcole d'Ingénieurs(エンジニアリング・スクール、課程2+3の5年)があり、26,000人の学生(うち4,500名が外国人学生)が学んでいます。3,000名の教員と、同じく3,000名の技官・事務官等の支援スタッフを擁し、上海交通大学の2006年世界ランキングでもパリ6大学に次いでフランスの研究・教育機関では第2位(全体64位)の高い評価を受けたフランスを代表する大学です。今回の訪問では、Dr. Monique BOLOTIN-FUKUHARA (Institut de Génétique et Microbiologie: 遺伝・微生物学研究所長)のコーディネートにより Prof. Annick WEINER(パリ第11大学国際担当副学長)ほか多くの研究者、大学院生が参加してのJSPS事業説明会が実施できました。そこでは、パリ地区JSPS同窓会のメンバー3名がそれぞれの日本滞在経験、日本での研究について語ってくれました。また、Dr. Hubert FLOCARD(CNRSユニット長・2008年3月のJSPS-CNRS共同フランス側コーディネーター)の案内で、Centre de Spectrométrie Nucléaire et de Spectrométrie de Masse(原子核分光学および質量分析研究所)を見学しました。同研究所では、東京大学、岡崎分子科学研究所、東京工業大学、東北大学、広島大学等と盛んに研究交流が行われています。



Dr. Monique BOLOTIN-FUKUHARA (中央) Dr. Hiroshi FUKUHARA(右端)



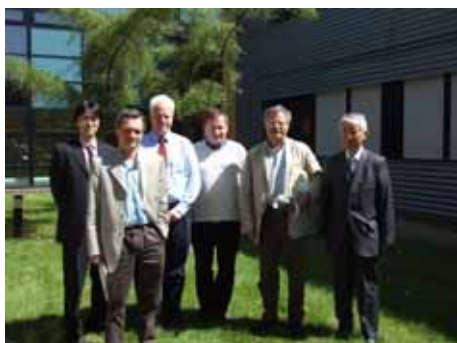
Prof. Nicola SPYRATOS (JSPS OB) 日本での研究について語る



Dr. Hubert FLOCARD の研究所訪問

5月29日 Université d'Angers (アンジェ大学)

アンジェは、城郭が良く保存されているアンジェ城や、そこに保存されているヨハネ黙示録のタペストリー(高さ6メートル、総延長の長さが100メートルある巨大なもの)で有名ですが、中世には早くも1080年に大学が置かれ、王の保護を受けてフランスの学問の中心地の一つとして栄えました。しかしながら、アンジェ大学はフランス革命の影響で、1793年に廃止されてしまいます。そんな歴史的経緯の後、1950年代後半、60年代を通じて設置されていた短期大学等が母体になって、1971年に現在のアンジェ大学が設立されました。創立30数年の若い大学ですが、6つのUFR(学部・大学院)とIUT(技術短期大学部) Ecole d'Ingénieurs(エンジニアリング・スクール)を1つずつ持つ、学生数17,000人の総合大学に発展しました。今回の訪問では、中谷センター長の学術講演会及びJSPS事業説明会を行ったほか、研究室訪問、国際担当副学長ほか大学幹部との意見交換を行いました。訪問した新装の化学研究所は、京都大学、東北大学、北海道大学、理化学研究所等と交流を行っています。



アンジェ大学にて
左から2人目より、Prof. Alain MOREL(大学院博士課程研究科長)、Prof. John WEBB(国際担当副学長)、Prof. Adam PARUSINSKI(アンジェ大学教授・JSPSOB)、Prof. Patrick BATAIL(CNRS研究ユニット長)

中谷センター長の学術講演会



5月30日 Université de La Rochelle (ラロッシュェル大学)

ラロッシュェル大学は、1968年に設置されたIUT(技術短期大学部)から発展し、1993年に正式に大学となった新しい高等教育・研究機関です。ラロッシュェルの港のすぐ側に造られたキャンパスでは、3つのUFR(学部・大学院)と1つのIUT(技術短期大学部)で6,600名の学生が学んでいます。今回の訪問では、研究担当副学長、国際担当副学長ほか大学幹部との意見交換、JSPS事業についてのプレゼンを行いました。

ラロッシュェル大学は、海に面した立地から、Centre Littoral de Géophysique(地球物理沿岸研究センター)での研究や、IFREMER(国立海洋研究所)と協力しての環境科学分野での研究に特色があります。また、ラロッシュェル大学は、地理的に近いポワティエ大学・トゥール大学・リモージュ大学・オルレアン大学とともに5大学でフランス政府の推進する“研究・高等教育拠点”(PRES: Le Pôle de Recherche et d'Enseignement Supérieur)の1つPRES Centre-Ouest(中央東)を構成しようと準備しています。PRES Centre-Ouestでは、特にラロッシュェル大学が以前よりポワティエ大学と密接な協力関係の下に研究を進めてきた情報学や数学の分野でのより一層の研究協力が期待されています。

ラロッシュェル大学は信州大学と大学間交流協定を締結しており、数名の学生交換が行われていますが、意見交換を行った国際担当副学長らの大学幹部からは、より広く新しい大学としての魅力を日本に伝えたいとの話がありました。



左から Prof. Michel AUGERAUD(大学院博士課程研究科長)、Prof. Gérard BLANCHARD(研究担当副学長)、Prof. Nadine EBOUEYA(国際担当副学長)との意見交換



モダンなデザインのラロッシュェル大学の本部“Technoforum”



沢山のヨットが係留するラロッシュェル港
街は大西洋に面し、フランスの夏のバカンスの避暑地として人気

6月13日 INRA Versailles-Grignon Research Centre (国立農業研究所ヴェルサイユ - グリニオン研究所)

INRAは、2005年度において1,875名の研究者・2,429名のエンジニア・4,633名の技術・事務スタッフを持つヨーロッパでも有数の農業研究機関です。261の研究ユニット、62の実験農場を持ち、そのうち140研究ユニットは大学等の研究機関との連盟研究室となっていますが、INRA独自の研究所もフランス全土の21ヶ所にあり、Versailles-Grignon Research Centreでは農業の応用技術への適用を目的とした、植物・微生物のゲノム研究、農業における環境科学、農産物加工の研究等を中心に活動しています。

今回の訪問では、本研究所の研究所長から研究・活動内容についての説明を受けた後、研究室を実際に訪問し、また本研究所の研究者・学生を対象にJSPS事業説明会を開催しました。



Dr. Yves CHUPEAU(INRA ヴェルサイユ所長: 中央)、
Dr. Yves GRIVEAU(INRA 国際部アジア・北アジア地区担当: 左から2人目)、
Dr. Akira SUZUKI(INRA 主任研究員: 右端)

室内実験農場見学の様子



6月14日 Centre de Recherche et de Restauration des Musées de France (C2RMF : フランス美術館修復研究所)

C2RMFは、ルーブル美術館のあるパリのルーブル宮の建物内にあり、ルーブルをはじめとしたフランスの美術館が所蔵する絵画・彫刻等の美術品の保存や修復を行い、またその方法の研究を行う研究所で、フランス文化省、CNRS、CEA(フランス原子力庁)のスタッフにより運営されています。今回の訪問では、Mme. Sopihe LEFÈVRE(広報担当)および Mme. Lucile BECK(CEA 研究員)の案内により、X線透過などの光学的解析に基づいた美術品の修復・保存の方法や、彫刻に使用された物質(例えば目の部分がルビー)の成分分析により、当時どの鉱山からその宝石が採掘されたかを研究する手法などを見学することができました。この研究所は、また、フランスの美術館が美術品を購入するにあたり、事前に該当の作品を預かり、修復・保存で培った技術を生かして購入対象品の真贋を判定するという重要な役割を果たしています。



ルーブル宮:ルーブル美術館ポルト・デ・リオン入口 この建物と庭園の地下部分に研究所はあります

美術品のX線透過写真 (C2RMFのHPより)



6月15日 Université Paris 7 - Denis Diderot (パリ第7大学)

18世紀のフランスの啓蒙思想家であったドゥニ・ディドロの名前を冠したパリ第7大学は、パリ大学が1970年に改組されて出来た13の大学の一つです。現在、パリ第6大学とキャンパスを共有しているパリ市内中心部のジュシュー地区から、同じ市内でも郊外に近い13区のトルヴィアック地区(再開発地区として、国立国会図書館もこの地区に移転し、新しい街が建設中)に新キャンパスを造り、各学部の移転が始まりました。今回の訪問では、研究者および大学院生を対象としたJSPS事業説明会の開催とともに、研究担当副学長ら幹部と意見交換を行いました。

パリ第7大学は、理工科科学・医学・歯学・文学・社会科学と多岐にわたる17ものUFR(学部・大学院)と3つの付属学校を持ち、26,000名の学生、2,700名の教育・研究スタッフ、1,100名の事務・技術支援スタッフを擁する総合大学です。日本の大学では、京都大学、神戸大学、関西大学等と研究者交流・学生交換などの協定を結んでいます。また、パリ第7大学は、パリ第1大学及びパリ第5大学とPRES“研究・高等教育拠点”(前述)を準備中です。



Dr. Richard LAGANIER(研究担当副学長:右から3人目)、Prof. Baudouin JURDANT(パリ第7大学教授:右端)

パリ第7大学新キャンパス (パリ第7大学HPより)



6月18日 - 6月20日にかけて訪問したスイス(フランス語圏)の高等教育・研究機関については次号で報告します。

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター / JSPS Strasbourg Office

42a, avenue de la Forêt-Noire 67000 Strasbourg, FRANCE

Tel : +33 (0)3 90 24 20 17 / Fax : +33(0)3 90 24 20 14